|  |
| --- |
| ５　中学校　２年生 |
| 気象情報を自ら活用し、気象災害から身を守ろう |
| 指導する学年 | ２年 | 指導場面 | 特別活動（学級活動） | 指導する時数 | １時間 |
| 本時のねらい | 気象情報（注意報・警報・特別警報、ナウキャスト等）を自ら活用し、正しくとらえ、気象災害から身を守るための適切な避難のしかたを理解する。 |
| 使用する資料 | 「政府インターネットテレビ」(<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg8294.html>)「命を守るために知ってほしい　特別警報」（気象庁リーフレット　平成25年）「急な大雨・雷・竜巻―ナウキャストの利用と防災―」（気象庁リーフレット　平成25年６月） | 基本的な指導内容 |
| 大雨・台風による災害、土砂災害、突風・雷による災害「知る・備える」「行動する」 |
| 学習内容・活動 | 指導上の留意点 |
| 　　　**事前指導（理科）**積乱雲の形や特徴を知る。政府インターネットテレビ.jpg１．「特別警報」が発表された気象災害事例の映像を視聴し、もし「特別警報」が発表されたらどのような行動をとるべきかを考える。【政府インターネットテレビ】気象情報を自ら活用し、気象災害から身を守ろう。**展　開**２．「注意報」「警報」「特別警報」の意味を知り、「特別警報」が位置付けられた目的をつかむ。　・「注意報」 最新の情報に注意して、災害に備えた早めの準備　・「警報」 自治体が発表する避難に関する情報に注意し、必要に応じ速やかに避難【特別警報（気象庁リーフレット）】　・「特別警報」 非常事態！重大な災害が起こるおそれが著しく大きい**導　入**『ただちに命を守る行動をとる』　 市町村からの避難勧告等に従い、ただちに避難！外出が危険なときは、家の中で少しでも安全な場所に移動・「特別警報」の情報源（気象庁ホームページ、テレビ、ラジオ、インターネット、広報車、防災無線等）３．映像の続きを視聴する。４．土砂災害に備えるための情報を知る。　・「土砂災害危険箇所マップ」（P.46参照）・土砂災害の前兆現象（P.47参照） ・「連続して100mm以上の雨」「１時間に20mm以上の雨」「大雨注意報」「大雨警報」・「土砂災害警戒情報」（P.49参照）５．急な大雨・雷・竜巻から身を守るための情報の活用の仕方を理解する。　　　　　　事前に天気予報・雷注意報を確認　　　　　　　　↓　 ←　竜巻注意情報ナウキャスト（レーダー降水・雷・竜巻発生確度）で最新の状況を確認　　　　　　　　↓積乱雲が近づくと建物に避難　　６．気象情報をインターネットで閲覧する。**まとめ**７．まとめをし、気象災害に備えた気象情報活用について、自己目標を立てる。気象災害に備えて、気象情報を積極的に活用し、気象災害から身を守る行動をとる（適切に避難する）ことが大切である。　**事後指導（朝の会や帰りの会等）**　　　　　　　　　　　○「特別警報」の発表後に、どのような行動をとったのかを振り返る。○屋外活動の際に気象情報を活用し、安全に行動しようとする習慣ができているかどうかを振り返る。≪一口メモ≫＊特に夏季休業中は、屋外での部活動やキャンプ、河川や海での活動の機会が考えられるので、本学習は夏季休業前に実施することが望ましい。「特別警報」が発表された時は、避難行動等直ちに命を守る行動をとることが必須となるが、普段の家族での話し合いや備えがあってこそ迅速に適切な行動がとれることを認識させることが大切である。＊気象情報を自らが積極的に入手し、身を守る行動につなげることが気象災害時の安全を確保する大切なポイントである。場合によっては、行政の避難勧告や避難指示を待たずに自らの判断で避難行動をとる実践力が求められることを生徒に伝えておく。≪資料紹介≫　＊以下の気象庁発行リーフレットに、詳しく解説している。リーフレットは、気象庁ＨＰからダウンロードできる。　（<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html>）○特別警報について　「命を守るために知ってほしい　特別警報」（気象庁　平成25年）　○「土砂災害警戒情報」について　「大雨や台風に備えて」（気象庁　平成24年５月）○「ナウキャスト」について「急な大雨・雷・竜巻―ナウキャストの利用と防災―」（気象庁　平成25年６月） | ○積乱雲は、急な大雨を降らせる入道雲であることをつかませる。○映像「政府インターネットテレビ　平成25年８月30日から特別警報がはじまります」の「特別警報ってなんだ？」のセリフで一旦停止し、特別警報が発表されたらどのような行動をとるのか問いかける。○生徒から出された意見に対し、「なぜそのような行動をとるのか」を問い、特別警報に着目させる。○生徒の経験や災害事例を引き出しながら、学習内容を板書で整理していく。○「特別警報」が位置付けられた背景を説明し、迅速な避難行動で命を守ることにつなげる目的をつかませる。○「特別警報」が発表されないからといって安心することは禁物であり、早め早めの行動をとることが大切であることを補足する。○避難場所や避難経路を家族が知っているかどうか、地域のハザードマップ等をチェックしたことがあるかどうかを確認し、家族防災会議を促す。○上記１で一旦停止していた映像の続きを見せ、学習内容を定着させる。○「土砂災害危険箇所マップ」や「土砂災害警戒情報」の中にどのような情報があるか確認させる。○土砂災害の前兆現象に気付いたら、すぐに近所の人や役場に知らせ、安全な場所に避難することが大切であることを補足する。○屋外活動の前に、天気予報や雷注意報をチェックし、雷注意報の発表中は渓流・河川敷や中洲・親水公園等での活動は避けることを伝える。○実際にインターネット等を使って、気象庁ＨＰから左記の気象情報を閲覧させ、活用のイメージをもたせる。**評　価**気象情報を有効に活用した災害からの適切な身の守り方を理解している。○自己の行動目標を振り返らせ、できたことを賞賛し、できなかったことを次の場面では改めるように助言する。 |
| 関連する教科・行事等 | 社会（地理的分野）：「自然災害と防災」　　理科（第２分野）：「気象とその変化」保健体育（保健分野）：「自然災害に備えて」 |